

びわこ文化公園植物だより〔β 版〕

クスノキ クスノキ科

・学名 *Cinnamomum camphora*



軟らかい新葉が目立つクスノキ(2023年4月28日)

今年は春の到来が早かったようで、新緑の美しい時期も早く訪れました。落葉樹が次々に芽吹き、軟らかい緑が目にと優しく映ります。そんな中、常緑樹も次々に新芽を吹き出していますが、ひときわやさしい緑が目立つ常緑樹がクスノキです。常緑樹は前年に展開した葉を残したまま新しい葉が芽吹くのが多いですが、ク

スノキは新葉が展開する頃に合わせて前年の葉を落葉させるので、新緑の柔らかさが目立つのです。

秋に落葉して冬の間は葉を付けずに過ごし、春先に新葉を展開させる植物を落葉樹、秋に落葉せずに冬の間も緑の葉を付け続ける植物を常緑樹と一般に呼んでいます。では、常緑樹はいつ落葉するのでしょうか？今の季節に公園内を歩いていると、落ち葉をたくさん目にします。春なのに落ち葉。そう、常緑樹は春に落葉するものが多いのです。



林床はクスノキの落葉が積み重なっている
(2023年4月28日)



新葉の展葉前に紅葉して落葉が始まる
(2023年4月1日)

常緑樹の落葉時期は、秋に落葉するもの、春に落葉するもの、春と秋に落葉するものに分けられます。アカマツやスギ、ヒノキといった針葉樹は秋に落葉するものが多く、ユズリハやクスノキ、アラカシ・シラカシなどのカシ類は春に落葉します。ユズリハは新しい葉に場所をゆずるように新葉が展開するタイミングで落葉が始まりますが、クスノキは新葉が展開する前に落葉が始まります。カシ類は2～3年目の葉が落葉するため、

1 年目の葉が残っていますが、クスノキは 1 年目の葉（昨年春に展開した葉）が落葉するため、新葉展開前は個体全体の葉が少なくなる印象です。周囲に緑の濃い旧葉が少ないので、新葉の軟らかい緑がひととき目立つのです。

クスノキはクスノキ科ニッケイ属の常緑高木で、園内では、バス停から公園管理事務所に向けての街路樹、県立図書館の周辺、西口から県立美術館に向かったの園路沿いに植えられています。クスノキは、漢字では「樟」「楠」と表記します。どちらの漢字も訓読みは「くすのき」ですが、樟のほうが古くから使われているようです。京阪本線に「樟葉駅」がありますが、樟葉駅の住所は枚方市楠葉花園町。漢字の使い分けが気になります。「枚方つーしん」の「ひらかたクイズ」¹⁾によると、日本書紀や古事記の時代には「樟葉」が使われていたものの、次第に「楠葉」の表記に置き換わり、廃藩置県後は「楠葉」村の表記になっており、明治 22 年に近隣の船橋村と合併して「樟葉」村と名称変更しています。その後、昭和 13 年に枚方町と合併する際に地域の名前が「楠葉」となり、現在に至るようです。明治 22 年から昭和

13年の間に作られた施設は「樟葉」、それ以外は「楠葉」の名称が使われているのが現状だとか。意味の違いではなく時期の違いで表記が分かれています。「新訂・図解 植物観察辞典」²⁾によると、クスノキの漢名は樟で、楠は中国四川省にある樹木で日本にはないとのこと。調べてみると、楠はナンタブ(*Machilus nanmu*)というクスノキ科の別属の樹木でした。中国四川省に生育する樹木で、直径 1m、樹高 40m にもなる大木です。家具材や建材として利用される種類でした³⁾。クスノキは巨木になる木の一つで樹齢も長く、鹿児島市の蒲生八幡神社境内の「蒲生の大楠」や福岡市大楠神社のクスノキ巨木が有名です。これら巨木のクスノキに楠の漢字が当てはめられているのも、巨木の力強さや長寿のイメージが転化したものと考えられます。

樟の漢字は「樟脳」に使われています。樟脳は天然由来の防虫効果を持った粉末状の物質で、クスノキから水蒸気蒸留法で抽出、精製されます。クスノキは、葉、茎、材を問わず切り口から樟脳の香りがする防虫効果を持つ樹木なのです。樟脳という有用物質を生み出すので、樟＝クスノキが楠より漢字表記はすっきりする

ように思います。クスノキの香りや防虫効果の話を書き出すと非常に長くなるので、今回はこのあたりで終わりにします。クスノキの新緑の下を歩くことで得られる清々しさは、「香り」の効果もあるのでしょうか。視覚だけではなく全身をリフレッシュさせてくれるクスノキを楽しみましょう。



蕾が目立ち始めました。連休明けには小さな花が見られそうです。(2023年4月28日)

(参考文献)

- 1) 「樟葉」と「楠葉」の違いは何？【ひらかたクイズ】
<https://www.hira2.jp/quiz/quiz-kuzuha-20180318.html>
- 2) 岡村はた・橋本光久・室井綽「新訂・図解 植物観察事典」(地人書館, 1993 年)
- 3) Machilus nanmu.
https://en.wikipedia.org/wiki/Machilus_nanmu

(龍谷大学 先端理工学部 環境生態工学課程
横田岳人)